

【将来像・教育目標】・・・「**学生も教職員も一人一人がきらりと輝く大学に!** ～地域でブランド力をもつ短期大学をめざして～」

最重点目標(KPI)	具体的目標(数値化)	ロードマップ(戦略: 何を・いつまでに・どのように)						アクションプラン
		2018年度	検証	2019年度	検証	2020年度	検証	考え方・内容、反省・改善策
I. 学生中心の視点に立ち、学んでよかったと思えるような大学を目指す ・教育内容の充実 ・教育体制の充実 ・きめ細かい相談体制の確立 ・就職指導体制の充実 ・魅力ある施設、くつろげる空間の創造	①導入教育(初年次教育)・基礎教育・教養教育の充実 ・ 入学生の満足度の向上(85%)	入学時のアンケート		入学時のアンケートを実施 アンケートの結果を分析、効果的な措置を実施 ・ 入学生の満足度80%		入学生の評価を導入 ・ 入学生の満足度85%		教務課
	②実践や資格に役立つ専門教育の充実 ・ 専門科目への満足度の向上(55%)	専門科目(キャリア専門教育)		基礎的専門科目とキャリア形成に直接つながる専門科目との明確化 ・ 満足度50%		キャリア形成のための専門科目の充実 ・ 満足度55%		教務課
	③中途退学・留年者の減少 ・ 修業年限卒業率の向上(90%)	中途退学・留年の原因の分析		成績不良者・多欠席者への指導体制の確立 ・ 修業年限率89%		成績不良者・多欠席者への指導体制の充実 ・ 修業年限率90%		教務課
	④成績評価の厳正な実施と教育の質保証 ・ 入学生3つのポリシーの認知度(50%)	教育の質保証のための方策の総合的対策 改革支援タイプIの採択		教員間の成績評価の相互検証 カリキュラムポリシーの重点的学習 改革支援タイプIの採択 ・ 入学生の認知度 30%		卒業時の成績評価と就職状況の相関度検証 ディプロマポリシーの重点的学習 改革支援タイプIの採択 ・ 入学生の認知度 50%		教務課
	⑤横断的な相談組織の構築 ・ 相談学生の問題解決感の向上	学生支援コーディネーターの設置		コーディネーターを中心に学科との連携を充実 保健室以外に相談室を設置 ・ 問題解決への有効度向上(定性的)		コーディネーターを中心に学科との連携を充実 ・ 問題解決への有効度向上(定性的)		学生支援課
	⑥就職率向上の戦略的指導 ・ 就職率の向上(100%)	KKリバースの活用 滋賀夢翔会との連携強化		県内経済団体との連携強化 公務員就職対策の充実 ・ 希望者就職率100% 一次的就労の削減		就職後の離職者の実態調査 ・ 希望者就職率100% 一次的就労の削減		学生支援課
	⑦施設設備における学生のアメニティの向上 ・ 施設に対する学生の満足度向上(70%)	学生の施設に対する希望調査を実施 スクールバスの導入試行		学生が自由にくつろげる空間を複数設定 ・ 施設への満足度 学生の50%		学生が自由にくつろげる空間を複数設定 ・ 施設への満足度 学生の70%		総務課・学生支援課
II. 滋賀県における短期高等教育機関としてのブランド化をはかるとともに、地域社会の課題解決に貢献し、地域から頼りにされる大学を目指す ・入学定員の充足 ・県下の高校生の選択肢の中での順位をあげる ・多様な入試により優秀な学生を確保する ・地域社会との連携推進 ・大学の広報体制の充実	①入学定員を充足するとともに、質の高い学生を確保する。 ・ 高い定員充足率を維持(90%)	学科コースの構成と適正定員を検討		社会人・留学生など多様な入学者を確保 学科コースの構成と適正定員を検討 ・ 入学定員の90%以上確保		社会人・留学生など多様な入学者を確保 学科コースの構成と適正定員を検討 ・ 入学定員の90%以上確保		入試広報課
	②県下の高校生にとって魅力のある大学としてのブランド化 ・ 受験生の増加	オープンキャンパスの充実強化 高校ガイダンスの質的充実		オープンキャンパス運営の改善 会場ガイダンスの質的充実 ・ OC参加者の満足度向上		オープンキャンパス運営の改善 会場ガイダンスの質的充実 ・ OC参加者の満足度向上		入試広報課
	③入試方法の再検討 ・ 入試方法別比率の適正化	AO入試の内容の再検討 一般入試への出願を増加させる		AO入試における学力考査(受講レポート)を導入 指定校入試・スポーツ入試に小論文を導入 ・ 受験生の増加 昨年比10%増		一定の学力を保証する受験方法への転換 ・ 質の高い受験生の増加		入試広報課
	④地域との連携の充実 生涯学習社会への適切な対応 ・ 連携の成果の評価	公開講座等の再検討と合理的開催 多様な地域連携の構築		連携自治体の拡大(守山市との連携強化) 地域おこしの事業に積極的に関与 ・ 連携自治体の評価の向上		地域間のネットワークの構築 ・ 地域での評価の測定		入試広報課
	⑤大学としての広報活動を充実 広報担当部門の充実と強化 ・ 広報活動の効果を測定	大学広報と入学広報を整理 広報担当部門の構築		広報に向けての情報収集システムの構築 学科・事務局の連携による広報の充実 ・ 県下の企業団体等に効果を聴取		広報に向けての情報収集システムの運用 ・ 広報への外部評価の導入		入試広報課
III. 学長のリーダーシップのもとに、ガバナンスを確立し、存在感のある大学を目指す ・経営の効率化と企画調整機能の構築 ・経費削減の推進 ・外部資金の獲得 ・50周年記念事業の実施	①学長のリーダーシップが発揮できる組織的条件整備 ・ 運営組織の機能化・合理化	学長をトップとした組織横断型の企画調整部門の設置		企画調整部門による課題の整理と問題提起 各種委員会の機能的運営 ・ 企画調整部門の活動の活性化		提起された問題解決への方策を提示 各種委員会の機能的運営 ・ 企画調整の成果の建昭		・学校経営企画の立案
	②中期目標計画による運営体制の明確化 ・ 中期計画の適正な執行	各年度の計画の執行管理 目標計画による運営の認識強化		各年度の計画の執行管理 目標計画の問題点の検討 ・ 中期計画の中間地点における評価		各年度の計画の執行管理 次期中期目標計画の策定準備 ・ 計画実現による成果の検証		・中長期計画の戦略立案
	③外部資金の獲得 経費削減の推進 ・ 収入増と支出減の実績	科研費・私学奨励金等への応募推進		科研費・私学奨励金等への応募推進 ・ 科研費等応募件数の5%増 ・ 予算全体で経費削前年比3%減		科研費・私学奨励金等への応募推進 ・ 科研費等応募件数の5%増 ・ 予算全体で経費削前年比3%減		・競争的補助金の獲得
	④50周年を契機とした社会への大学のアピール ・ 大学への注目度の向上	50周年記念事業計画の策定		50周年記念事業の広報宣伝 ・ 50周年記念事業計画の発表		50周年記念事業の実施による大学のアピールの実現 ・ 50周年記念事業の実施運営		・2020年に向けて

※中長期経営計画「すみれ2030」の期間…2018年度～2030年度とし、第1弾・第2弾・第3弾に期間区分して進捗管理する。

※学園全体の重点目標(KPI)に基づき、各部門の中期目標、ロードマップ、アクションプランを設定。中期目標項目(4つに拘らない)の増減は各部門にて考慮すること。

【将来像・教育目標】…「**建学の精神に基づき、豊かな教養と専門知識と技術を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する短期大学となる『成長が実感できる2年間～学生を鍛える短大へ～』**」

最重点目標 (KPI)	具体的目標 (数値化)	ロードマップ(戦略: 何を・いつまでに・どのように)						アクションプラン 考え方・内容、反省・改善策	
		2018年度	検証	2019年度	検証	2020年度	検証		
I. 教育内容の充実 ・ 修業年限卒業率の向上 (90%) ・ 教職員の意識改革 ・ カリキュラム改革 ・ ブランド力向上 ・ 入学定員の充足 ※行動計画の取組 ●わかる授業の実践 ●循環型キャリア教育の充実 ●ゼミアワーの充実 ●活気溢れる学びの場の充実	①導入教育(初年次教育)・基礎教育・教養教育の充実 修業年限卒業率 ・・90.1%(2017) ・ラーニングcommonsの充実 延べ利用者/5月1日付人数 546/599=110%(2017)	教務委員会で入学後のアンケートを検討		入学後のアンケートを実施(オリエンテーション、カリキュラムの点検、改善)				・アンケート実施により入学時のニーズ把握(5月病対策、早期休・退学防止に活用) ・社会人としての意識や道徳意識をどのように持たせるか検討(生徒から学生へ) ・運営体制の整備	
		・修業年限卒業率…88%		・同比率…89%		・同比率…90%			
		教務委員会で学科と入学前教育、導入教育を検討		教育内容の充実に向けた取組					
		教務委員会と学科で基礎教育(情報リテラシー)、教養教育を検討		・教学で新設科目開設のルール作り					
		教務委員会でラーニングcommonsの運営体制を確認		ラーニングcommonsの充実		・同利用率…140%			
		・同利用率…120%		・同利用率…130%					
	②実践や資格に役立つ専門教育の充実 ・短大生調査2017 専門科目満足14%	教務委員会と学科で専門科目(キャリア専門教育)を検討		各学科で免許・資格養成の点検、教育内容の充実に向けた取組				・3ポリシー、履修系統図(カリキュラムマップ)、科目ナンバリングを活用	
		・満足度…45%		・満足度…50%		・満足度…55%			
	③成績評価の厳正な実施と教育の質保証 ・卒業要件の再検討 ・GPA制度の活用 ・平準化の設定	アセスメント・ポリシーの理解を進めるための講習会を開催		教育の質保証に向けた組織的な取組					・無償化に伴う対応 ・各授業科目における成績評価基準の平準化
		教務委員会と学科で中途退学者を減らす観点から卒業要件を再検討							
		CAP制導入の可否についての研究会を開催							
	・シラバスの充実 ・入学者3つのポリシー認知度 ・免許資格等の取得強化 ・短大生調査2017 十分に学べている14%	教務委員会と学科で、資格試験の合格と大学の成績との関連性を検討		科目ナンバリングの運用開始(2019)と部分的な見直し				・科目ナンバリングに分野項目の追加履修系統図、ナンバリングによる全授業科目の体系化 ・改革支援タイプIの採択	
		・同比率…15%		シラバスのペーパーレス化(2019～)へ					
				・同比率…16%		・同比率…17%			
II. 教育体制の充実 ・ 教員の意識改革 ・ 経費節減への取組	①充実したカリキュラム実施に必要な教員の確保 ・働き方改革	教員の授業負担の原則作り		規程整備、法人本部と増担当の検討				・教員の授業担当数の公平化を図る。	
		教務委員会と学生支援委員会で教員の課外活動の在り方を検討		英語習熟度編成の点検					
III. 業務運営の改善及び効率化 ・ 事務職員の専門性の強化 ・ 職員の意識改革 ・ 経費節減への取組 ・ ガバナンスの強化	①事務の効率・合理化 ・ 教員との連携強化 ・ 働き方改革	教務システムの運用・業務を点検		教務システムの運用・業務を点検				・定型作業等の業務を洗い出し、システム化(プログラム出力化)の実施。 ・学生対応の強化、学生支援に係わる体制を整備。	
		係制廃止に伴う体制づくり		連絡をWeb化していく提案をまとめる					
		実習先コードのルール化							
			事務職員の研修充実及び企画運営力の向上「親切的窓口業務、学生視点でのサービスの在り方検討等」						
	②授業環境の整備 ・ 教育の質保証		総務課と連携し、ICT、アクティブラーニング、PBL等に適した授業環境に向けた整備と充実						・補助金を活用した取り組みの提案。
			必要な機器等の洗い出し		教務委員会への提案…1件以上		教務委員会への提案…1件以上		
③情報公開、IR対応、補助金情報の有効活用 ・ 専門性の強化				教務課が持っているデータの活用を検討		教務統計データ集としてまとめる		・事務の簡素化・平準化・敏速化の観点から、統計業務をマニュアル化。	
		免許・資格関連情報、補助金情報の収集							

※中長期経営計画「すみれ2030」の期間…2018年度～2030年度とし、第1弾・第2弾・第3弾に期間区分して進捗管理する。

※学園全体の重点目標(KPI)に基づき、各部門の中期目標、ロードマップ、アクションプランを設定。中期目標項目(4つに拘らない)の増減は各部門にて考慮すること。

【将来像・教育目標】・・・「 **募集定員の確保 = 受験生に対して魅力ある大学、学生満足度の高い大学作り** 」

最重点目標 (KPI)	具体的目標 (数値化)	ロードマップ(戦略: 何を・いつまでに・どのように)				アクションプラン		
		2018年度	検証	2019年度	検証	2020年度	検証	考え方・内容、反省・改善策
I 学生募集に係る戦略的な広報活動 ・効果的な広報媒体の利用 反応率の向上 ・募集活動の質の向上 参加者評価向上 ガイダンス増加	①広報媒体反応数の向上 SNS、受験雑誌、DM 反応数20%アップ	反応率現状把握 SNS 受験雑誌 DM		反応率10%アップ SNS 受験雑誌 DM		反応率20%アップ SNS 受験雑誌 DM		・反応数による効果的な媒体の精選 ・志願者に直接訴える広報媒体の選択 ・安定したネット環境が絶対に必要
	②オープンキャンパス参加満足度向上 参加者の80%以上が満足	・面談体制整備 参加者全方面談 各科面談率 80%以上 ・OC企画運営に学生が参加する体制の検討		・各科面談率 90%以上 ・学生スタッフのスキルアップ 研修実施 4月 6月 7月		・各科面談率 100% ・学生スタッフ企画実施		・アンケートによる参加者満足度の調査 ・参加者すべての面談による受験への誘導 ・魅力ある先輩像、講義内容による入学意欲の高揚
	③オープンキャンパス参加者数増 参加者 対前年比20%増	・参加者増のための方策検討 チラシ DM HP		・参加者10%増(対前年比) チラシ DM HP		・参加者20%増(対前年比) チラシ DM HP		・OC広報の方法検討
	④高校・会場ガイダンス参加増 高校ガイダンス参加数増 会場ガイダンス参加数増	高校ガイダンス 100 会場ガイダンス 15		高校ガイダンス 120 会場ガイダンス 20		高校ガイダンス 130 会場ガイダンス 25		・ガイダンススタッフ増員およびプレゼン能力の向上がポイント ・参加者が確実な高校ガイダンスに重点を置く。
II 入試方法の改善 ・質の高い学生の確保 ・多様な入試方法の検討	①学力評価方法の導入 A0: 感想レポート→受講レポート 指定校: 面接→+小論文 スポーツ: 面接→+小論文	・文科省の2021年度大学入学者選抜要項見直しの通知を受け、入学試験名称及び内容を検討する。		・すべての入試において学力を評価する方法の導入を検討する。		・新しい入試制度に基づいて学生募集を実施する。		・文部科学省の指示による入試改革の推進 2021年度入試(2020年度募集)で完全実施 ・学力を評価する入試、高校での取り組み、個人の成長を評価する(ポートフォリオ)入試の実施
	②入試方法の再検討 高校生対象: 高校での活動を評価 社会人対象: リカレント教育対応 留学生対象: 日本語レベル基準	・特別入試の検討 社会人対象特別入試 留学生対象特別入試		・特別入試の検討 社会人対象 職歴等の参考事項評価 留学生対象 日本語レベルの基準		・特別入試の実施要項作成 社会人対象 留学生対象		・社会人、留学生を受け入れる複数の入試方法を検討 ・関係機関との連携協定などを必要に応じて推進。 ・学内受入体制の整備は必須 入学させ中途退学はマイナス効果
	③定員の適正化 高校生90%以上 社会人5%以上 留学生5%	・入試区分別受験者数、合格者数、入学確定数等を詳細に検討する。 ・定員内の比率検討		・定員内比率目標 高校生90%以上 社会人3%以上 留学生2%		・定員内比率目標 高校生90%以上 社会人5%以上 留学生5%		・定員減を考えるのではなく、定員の内訳を検討することがポイント。 定員減→収入減
III 高大連携の推進 ・連携校の拡大 ・本学の研究内容の魅力を伝え入学につなげる。 ・魅力ある出前講座の設置	①高大連携校数増 附属高校 公立高校 専門学科 2 公立高校 普通科 3	・附属高校との高大連携の検証		公立高校との連携締結 1~2校 専門学科を中心に検討		公立高校との連携締結 2~3校 普通科を中心に検討		・連携推進には、教務課、各科との連携が必要 高大連携担当 教務1 各科1 高校の担当と打合せを行い事業を進める。 ・入試広報課の現有職員では対応できない。
	②出前講座数の増加 生活 7講座→9講座 幼教 12講座→16講座 ビジ 7講座→9講座	・出前講座の見直し 講座の反応を検証 講座依頼数の確認		・各科における出前講座の内容検討 各科講座数20%増		・各科における出前講座の内容検討 各科講座数30%増		・各科と協議し、教員一人が複数の講座を担当する出前講座を作る。 ・業者を通じての案内と実施 各科講座数30%UP
IV 大学HPの充実 ・HPを目的別に整理し大学全体の情報発信強化	①効果的に情報発信できる業者選定と大学HPの作成	・大学HP作成の検討 ワーキンググループによる課題検討及び今後の方向性答申		・大学HP作成業者検討 および構成内容の検討		・大学総合HPの作成と広報		・大学全体のHPの作成 入試(受験生向け)情報、研究情報、企業向け情報 保護者向け情報、在学生向け情報、教職員向け情報 同窓会向け情報など
	①各学科、各課の目的別HP作	・各学科、各課の広報担当の検討 ワーキンググループによる広報体制見直しの答申		・各学科、各課に広報担当設置 および広報内容の検討		・各学科、各課によるHP作成および広報		・上記情報発信に向けて各学科、各課で分担し作成。その情報をまとめて内容をチェックし、業者に委託する部署が必要

※中長期経営計画「すみれ2030」の期間…2018年度～2030年度とし、第1弾・第2弾・第3弾に期間区分して進捗管理する。

※学園全体の重点目標(KPI)に基づき、各部門の中期目標、ロードマップ、アクションプランを設定。中期目標項目(4つに拘らない)の増減は各部門にて考慮すること。

【将来像・教育目標】・・・「魅力ある大学施設、学生がくつろげる空間・施設づくり」

最重点目標 (KPI)	具体的目標 (数値化)	ロードマップ(戦略: 何を・いつまでに・どのように)						
		2018年度	検証	2019年度	検証	2020年度	検証	考え方・内容、反省・改善策
I. 魅力ある施設 くつろげる空間・施設 づくり ・施設利用満足度調査 ・入学者数の定員確保 ・退学者数を3%以内に。 (年間20人以内、ゼロ目標)	① 1号館・2号館の建替計画 予算化・補助金の道筋	大規模施設整備検討 ・50周年に向けての提案 (建築・改修の方向性決定)		・実現に向けて、建築等準備 (予算)		創立50周年 建築等完了 (決算)		・財務状況に応じた検討が必要。 ・2号館の耐震改修
	② 施設整備委員会の活性化 (年間6回開催)	年間2回開催 他大学の施設見学実施		年間6回開催		年間6回開催		・中長期ビジョンの策定
	③ 食堂・学生ホール・共有スペースの充実	学生の施設設備に関する意見 聴取・まとめ(過去からの要望 も整理) 施設要望へ反映		食堂・学生ホールのリニューアル と学内LAN整備、備品の充実		利用時間数の調査		・学生の憩いの場としての満足度
	④ 蛍光灯のLED化100%化へ (2019. 3蛍光灯生産中止) 教室スペースの充実	LED化30%		LED化90%		LED化100%		・省エネ対策
II. 経費削減の推進 ・ペーパーレス化対策 ・各種会議の事前電子 データ配信によるペーパ レス化 ・会議時間の短縮化	① 会議資料の事前データ配信	周知、意識改革期間 効率化・効果の検証		枚数10枚以上の資料は、デー タでの配信を徹底。		ペーパーレス化の効果検証		・デジタル化も検証
	② 印刷費支出額の減少 (管理経費△3.0%/前年度対比)	前年比△3.0% 両面・白黒印刷の推奨		前年比△3.0%		前年比△3.0%		・業務の見直し、改善
	③ 委員会の簡素化 (各委員会の成果)	統廃合する委員会を検討 (スクラップ&ビルド)		素案		実行		・効率的、効果的な会議に向けて ・各委員会の成果の検証
	④ 会議の運営・合理化	周知・依頼・調査		実態報告義務化 各種会議の見直し		各種会議の効果		・原則、勤務時間を超えての会議は廃止
III. 外部資金の獲得 ・補助金の傾向と対策	① 科研費申請数の増加 (目標10件)	7件 (専任教員数32人比率 21%)		9件 (専任教員数32人比率 28%)		10件 (専任教員数32人比率 31%)		・各科調査 ・獲得状況分析
	② 補助金獲得の推進継続 (教学マネジメント部会との連携)	一般補助金90百円		一般補助金100百円		一般補助金100百円		・競争的補助金の獲得 ・活動内容の検証
IV. 地域社会に向けて ・地域連携の効果	① 生涯学習機会の提供 (前年度比10%UP)	公開・連携講座の充実 開催回数・開催場所		参加者前年比10%増加		参加者前年比10%増加		・参加者への調査、講座の見直し
	② 図書館等大学施設の開放 (前年度比10%UP)	利用者の要望を調査		外部利用者前年比10%増加		外部利用者前年比10%増加		・地域共感、ブランド力向上

※中長期経営計画「すみれ2030」の期間・・・2018年度～2030年度とし、第1弾・第2弾・第3弾に期間区分して進捗管理する。
 ※学園全体の重点目標(KPI)に基づき、各部門の中期目標、ロードマップ、アクションプランを設定。中期目標項目(4つに拘らない)の増減は各部門にて考慮すること。

【将来像・教育目標】・・・「 **当たり前を当たり前でできる教育指導と学生指導** 」

最重点目標 (KPI)	具体的目標 (数値化)	ロードマップ(戦略: 何を・いつまでに・どのように)				アクションプラン		
		2018年度	検証	2019年度	検証	2020年度	検証	考え方・内容、反省・改善策
I. 就職率向上の戦略的指導 ・就職面談の実施・共有 ・インターンシップ先の拡充 ・OBOGとのネットワーク確立 ・就職では公共団体の活用 ・企業、園訪問の拡充 ・幼教において大津市との連携を強化する	①就職率100%へ挑戦 ・試験対策の充実 ・教職員間の情報共有 ・就職先確保及び信頼関係の確立	・株式会社リハースの活用 ・5月の進路面談実施 ・5月の進路面談実施 ・滋賀夢翔会との連携 就職率100%、一次的就労の削減		学生支援課との情報共有 ・経済同友会・産業協会、中小企業家同友会・団体中央会等の活用 就職率100%、一次的就労の削減		学生支援課との情報共有 ・経済同友会・産業協会、中小企業家同友会・団体中央会等の活用 就職率100%、一次的就労の削減		・ 就職率100% 、一時就労者の削減 ・学生支援課との情報の共有、就職につなげる。 ・面談、対話の充実 ・公共団体の活用で就職先販路の拡大を図る ・学科別の就職内定率を提供、応募者への理解。 ・協定先との連携を深め優位な就職環境を作る。
	②公務員合格者の増員 ・公務員対策授業の充実 ・ラーニング・コミュニティの有効的活用 ・2017年度の実績 幼教13名、ビジ1名 ・内定目標(8名)	・公務員対策授業、対策講座実施 ・内定目標(8名)		・内定目標(10名)		・内定目標(10名以上)		・短期大学ブランド戦略の確立 ・増加率10%UP
	③金融機関への就職 ・地方銀行、信用組合、農協へ就職 ・保護者から信頼関係を生む ・2017年度の実績1名内定、関連企業6名内定	・比較的学生の希望が薄い ・内定目標(3名)、関連企業内定目標(4名)		・理解促進。経営・経済を学ぶことで金融経済に関心を持ち、就職先の拡充を図る。 ・内定目標(5名)、関連企業内定目標(4名)		・金融、生損保関連企業への内定 ・内定目標(5名)、関連企業内定目標(4名)		・短大ブランド戦略の確立 ・保護者からの信頼確保 ・就職先の見える化 ・入学者数の増減 ・増加率5%UP
	④就職講座出席率の向上 ・必要性の認識向上 ・支援課の効率的な活用	・学生支援課が主たる指導課としてしっかりと認識させる。		・学生支援委員会と協力し出席の悪い学生への面談指導				・厳しさと思いやりを持ち指導
II. 学生への包括的指導、援助 ・多彩な学生生活の実現 ・教育、キャリアに繋がるボランティア ・災害現場支援ではなく施設、園、道の駅、地域	①相談体制の充実 ・カウンセラーのみならず教職員間情報共有	・保健室、カウンセラー3人体制継続 ・滋賀夢翔会との連携		・滋賀夢翔会との連携 ・学生支援コーディネーターの設置				・心のケア、就職支援等
	②地域との連携事業 ・ボランティア活動の支援 ・寄宿舎の充実	・教育、キャリアに繋がるボランティア施設、園、道の駅、地域 ・寄宿舎情報の提供		・教育、キャリアに繋がるボランティアを実施し、広報活動の充実を図り学生確保につなげる。 ・寄宿舎情報の提供		・寄宿舎情報の提供		・3学科ともに、学科毎の専門学修の支援を実施。 ・本学のブランド力を前面にアピール。 ・附属高等学校のセミナーハウスの活用
	③人間力、常識人の育成 ・マナー、言葉遣いなど	・学生に対し、学生支援委員会で傾向と対策を分析		・社会人基礎力の涵養 ・常識人の育成		・社会人基礎力の定着 ・常識人の定着		・周りの大人が学生指導を心がけることより、学生が気づき実行できるよう導く。社会人基礎力が重要。 ・授業として取り組みしていくのか検討。
	④4年制大学への編入	・4年制大学への編入 ・編入進学(5名)		・編入進学(5名)		・編入進学(5名)		・学科毎の編入担当教員の設置(教務課との連携) ・増加率5%UP
III. 学生支援の充実 ・通学条件の改善 ・空き教室の活用 ・学生の居場所作り ・表彰制度の検討	①スクールバスの導入	・平成31年1月より試験運行		・試験運行、学生の利用頻度と意見等を調査				・試験運行、学生の利用頻度と意見等の調査 ・本学所有のバスの進行。
	②学生の居場所作り	・保健室、幼教事務所に来る学生に対応する支援 ・空き教室の利用		・養護教諭とカウンセラーへの支援 ・ゼミ教員、学生支援課との連携体制で支援。				・ゼミアワーの廃止。クラス制の導入。ホームルーム週一回実施(テーマ毎の会議、問題解決法)。
	③学長表彰の検討	・表彰内容の見直し ・原則、現行通り実施						・表彰内容の見直し ・学生のモチベーション向上。
	④同窓会との連携強化			・同窓会、ホームcomingデーとの連携				・卒業生との連絡ネットワークの構築で、就職等の進路確保、入学者確保につなげる。

※中長期経営計画「すみれ2030」の期間…2018年度～2030年度とし、第1弾・第2弾・第3弾に期間区分して進捗管理する。
 ※学園全体の重点目標(KPI)に基づき、各部門の中期目標、ロードマップ、アクションプランを設定。中期目標項目(4つに拘らない)の増減は各部門にて考慮すること。